

当会会員のトヨタ自動車北海道(苫小牧市)様が

2月24日付の日刊工業新聞に紹介されました。

トヨタ自動車北海道

北海道のモノづくりの底上げを一。トヨタ自動車北海道(北海道苫小牧市、田中義克社長、0144・57・2121)は、北海道内での部品調達を進めている。道内調達率を高め、効率的な生産

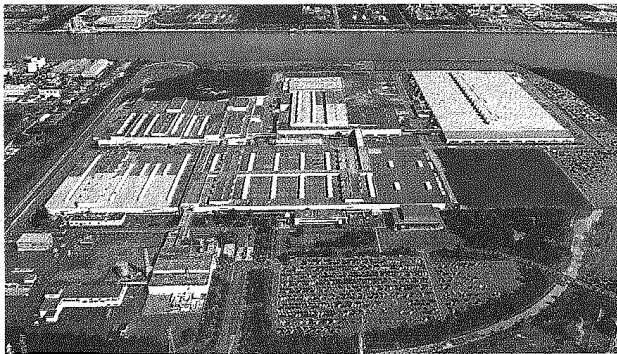
体制を築くことで地元産業の活性化にもつなげる。同社は北海道経済をけん引する存在でもあり、北海道の優位性を生かした産業の発展にも取り組む。(札幌・山岸渉)

グローバル経営

適地
生産

適地
販売

北海道モノづくり底上げ



部品の現地調達を進め、効率的な生産体制を築くことで地元産業の活性化を図る

トヨタ自動車北海道は1992年に操業した。トヨタ自動車は経済成長とともに人手不足になり、人材確保の点などから北海道に部品を作る拠点を設けることになった。当初はアルミホイールを生産(10年に撤退)、現在では自動変速機(AT)や無段変速機(CVT)、ハイブリッドトランスアクスルなど駆動ユニットを手がけて

北海道に拠点を設けるに当たり「地域に密着する会社であるべき」という話になったと田中社長は振り返る。地場安いのができればコスト競争力が強まり地元経済の活性化にもつながる。北海道内での部品調達

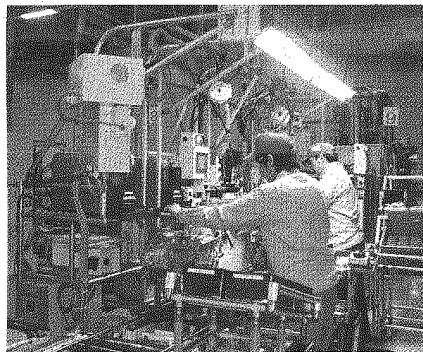
道内調達率を高め活性化

先は16社。14年度時点で全体の16%程度だ。「要望する精度の高さで数を作ることができない会社はなかなかいない」と指摘するが、00年・05年頃の6・7%からは増えている。

北米向けに出荷しているCVTの部品調達では、北海道内で約30%、東北で約15%と北海道・東北地区といった「域内調達」で半分近くを占める。同社の工場内にCVT用金属ベルトを手がけるシーヴィテック北海道(苫小牧市)が操業し、効率的に部品が納入されるようになった。

「さらに増やす方向に持っていきたい。北海道への企業誘致に加え、当社の部品などをあまり手にかけていない企業に『作れるものはないか』と働きかけていくことも重要だ」と田中社長は話す。現地調達は、北海道のモノづくり全体の課題でもある。田中社長は、北海道経済連合会副会長や

異業種とも連携 地域の魅力生かす



19日に3本目となる新しいCVTの生産ラインを稼働

道内のモノづくり企業など約350社・団体が参加する北海道機械工業会の会長を務める。いわば、北海道とともに成長するという強い意志もいえる。北海道の強みである「食」について、食品メーカーと道内モノづくり企業のマッチングにも力を注ぐ。「食の付加価値を高める加工ができるよう入り込んでいきたい」と田中社長と意気込む。「北海道は健康的なイメージもある」とハ

イオ関連では、北海道機械工業会は北海道バイオ工業会と工場見学会も開くなど連携強化に取り組んでいる。北海道は風力やバイオマッなど豊富であり、再生可能エネルギーの供給一大拠点としての可能性も期待する。「自動車部品や食、エネルギーなど、北海道のものを本州や海外へ売っていくチャンスはある」と(同)と見据え、北海道を一つの国力を考えた「道外貨」を稼ぐことが重要と説く。北海道の強みを生かし、その魅力を内外にアピールしていくことにも余念がない。